



学校だより

5月号

第426号

教育目標：自分がすき 友だちがすき まちがすき 進んで学ぶ 山田の子

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/yamata/>

VUCA（ブーカ）の時代を生きる

校長 金森 孝子

ウクライナの子どもの状況を伝える報道番組を見ました。ウクライナの教育は、1年生～11年生が1つの校舎で学び、地域や異学年のつながりがとても強い教育制度がとられています。1～4年、5～9年が義務教育、高等教育についても10・11年まで同じ校舎で学ぶことができるということで、学齢期の分け方も試験制度も日本とはかなり異なっています。現在のウクライナの子どもたちを思うと胸が締め付けられます。番組の映像は「学校に行きたい」「友達と会いたい」と一心に願う子どもたちの願いと姿を伝えていました。



花壇の菜の花(4・25)

10歳前後の一人の男の子が、閉鎖された学校の近くで、「早く学校に通い友達と遊びたい」とインタビューに答えています。校門は固く閉ざされ、一時は軍に占拠されていた学校からパソコンやプロジェクターなどの機材は持ち去られていて、黒板には子どもたちへのメッセージと謝罪が書かれています。

双子の姉妹は母親と共にキーフの近くのホテルに身を寄せ、フロントに座り受付の手伝いをしながら勉強を続けています。毎日オンライン授業を3時間受け、学校からの宿題にも取り組みます。この戦時下でも、オンライン授業を配信し宿題を出すなどの授業が維持されていることを知り驚きました。この姉妹のクラスではすでに4分の3～5分の4の生徒がウクライナを出国し、それぞれの地でネットでの学習を続けているそうです。

親類を頼って日本に避難している家族の映像も見ました。母親は子どもたちの教育がとても心配でウクライナから多くの教科書を持ってきたことを話しながら、子どもたちに勉強を教えていました。想像を絶する状況におかれても学ぶことを止めない・・・教育や教育の在り方について深く考えさせられる内容でした。

VUCA（ブーカ）とは、「テクノロジーの進化によって、あらゆるものを取り巻く環境が複雑さを増し、将来の予測が困難な状態」を意味する言葉で、このところ教育界でも広く使われるようになりました。V（volatility 変動性）U（uncertainty 不確実性）C（complexity 複雑性）A（ambiguity 曖昧性）の頭文字をとった造語で、言葉としては1990年代からあったようですが、一般に使われ始めたのは21世紀になってからです。グローバル化が一気に進み、スマートフォンの登場によって誰とでもいつでも瞬時につながることが可能、と思われていた中でのコロナ、大国による戦争、、この状況を誰が予測していたでしょうか。1か月先の予想も難しい現代社会を生き抜くためには、多様な人々と関わりながら、社会的変化に対応し、試行錯誤しながらも主体的に物事を解決していく力、持続可能な未来社会を切り拓く資質・能力が求められます。学校教育目標「自分がすき 友だちがすき まちがすき 進んで学ぶ 山田の子」の育成に向けて、今年度は、VUCAの時代のニーズを見極め焦点化し、コロナ禍の制限の中で十分に実施できなかった「体験的な学習」「友達と協働する中で問題を解決する学習」を重視します。新たな取組も加え、次のように整理しました。ご理解とご協力をお願いいたします。

（★は新たな取組）

- ① 「だれもが」「安心して」「豊かに」学ぶことができる環境を作ります。
 - ・チーム学年経営による複数の見守り、★児童支援専任・特別支援教育コーディネーターの複数配置
- ② ★少人数指導（1・2年）教科分担制（3年～6年）の体制を組み、「楽しい」「分かる」授業を作ります。
- ③ 教科横断的な学習、生活科・総合的な学習の時間を中心に、子どもの★「SDGs」への関心と理解を広げ、自身の生活や生き方とつなげる学びを作ります。
- ④ GIGAスクール構想2年目を推進します。
 - ・デジタル教科書の効果的な利用（算数・★英語・道徳）・文房具としてのiPadの活用
- ⑤ 50周年事業の成果を生かし、保護者、地域、社会と深く関わりながら学校づくりを行います。
 - ・まちとともに歩む学校づくり懇話会、東山田中ブロック学校運営協議会、学校評価
- ⑥ 遠足・校外学習、泊を伴った体験学習（5年）・修学旅行（6年）で得られる体験や経験を重視し、実施のための場所・日程等の見直し、変更を行います。（改めて、お知らせします。）